

## 東日本大震災対策委員会 エネルギー政策の選択肢分科会(第3回)議事要旨

1. 日時: 平成23年5月19日(木) 17:00~19:30

2. 会場: 日本学術会議 6-A(1)会議室

3. 出席者:

日本学術会議: 大垣真一郎副会長

エネルギー政策の選択肢分科会(敬称省略):

今田高俊、馬越佑吉、海部宣男、北澤宏一、笠木伸英、小林良彰、西尾章治郎、松村敏弘、矢川元基、鷺谷いづみ

事務局: 石原、瀬高、中島他

4. 資料:

資料1 前回議事要旨(案)

資料2-1 各シナリオにおける電気代の増減(試算)

資料3-1 学会・学術会議を含む背景

資料4 エネルギー政策選択肢の選択肢案

資料5 エネルギー政策選択肢の評価指標

資料6 再生可能エネルギーの導入ポテンシャル

参考1 エネルギー基本計画(平成22年6月)

参考2 学術会議 東日本大震災復興対策委員会「エネルギー政策の選択肢分科会」の設置の目的

参考3 科学技術進歩と社会システム設計がもたらす明るく豊かな低炭素社会(2011.5.10 JST 低炭素社会戦略センター長 山田興一)

参考4 原子力安全委員会 安全審査指針集(抜粋)

参考5 原子力開発10年史(抜粋)

参考6 新聞記事等

参考7 現在の原子力発電所の稼働状況

参考8 海外の状況

5. 議事:

1) 前回議事要旨(案)の確認

原案のとおり承認された。

## 2) 代替エネルギーに関する重要度分析と各エネルギーのコスト比較、開発規模のポテンシャルについて

以下のような意見が出された。また、北澤委員長より資料3-1、資料4、資料6に基づく説明、笠木委員より資料5に基づく説明、事務局より資料2-1に基づく説明が行われた。

- 原子力発電を減らす場合、安全性を担保するコストと比較する必要があるのではないか。
- 試算結果は一つのシナリオとして良いが、現在の電気価格は原子力発電を前提として決まっているものである。また、例えば原子炉を廃炉にする場合、廃炉費用やバックエンドコストによるコスト増、新規の原子炉を建設しないコスト減があるので、これらも考慮にいれるべきではないか。
- LNGと原子力発電のコストのデータは既に変わっている。また、3.11以前のコストで計算しても良いのか。
- バイオマスはコストが高い点があるが、カーボンニュートラルの観点などメリットもあるため、評価に含めてほしい。定量的に評価できないエネルギーでも、質的な評価をすれば良いのではないか。
- コストのみの議論ではなく、経済的な指標や考え方を取り入れ、試算の精密さを上げる必要がある。
- 供給安定性や生物多様性、廃棄費用やメンテナンス費用などのファクターにどのような重み付けをするかでコストは変わってくる。どのファクターを選ぶかが重要である。
- 太陽発電や風力発電は地域依存性、季節依存性がある。それらを試算のモデルにどう取り込むのか。

## 3) その後の調査の進展について

以下のような意見が出された。

- 再生可能エネルギーの設備導入にかかるコストや問題点を全て出し、エビデンスを踏まえた上で選択肢が選べるようにしてほしい。
- ラフな試算であっても、実現可能性も問われてくる。エビデンスをもっと掘り下げる必要がある。

## 4) 当面の見方(中間討議用)について

以下のような意見が出された。

- これまでの学会会議の提言を踏まえ、内容を検討するべきではないか。
- 選択肢の文言に条件が含まれている他、もう少し中立的な表現したほうが良い箇所がある。
- 電気代での表現になっているが、エネルギーを導入するためのコストとしたほうが分かりやすいのではないか。

以上